

平成28年度 小林市立須木小学校 自己評価書

4段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
-------	--------	-----------	------------	----------

学校経営ビジョン	「夢や希望をもち、元気・やる気・本気、笑顔いっぱいの須木っ子の育成」 ～ 知恵、声、汗を出すことの実行を通して ～
----------	---

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	具体的な数値目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
				取組別	総合	
知育	重点目標: 基礎・基本を確実に身に付け、意欲的に学ぶ児童の育成 手段: 1 分かりやすく楽しい授業実践 2 言語活動の充実 3 読書活動の推進 4 家庭学習の充実	1について ○ 活用する力を育成するための授業の在り方の研究 ○ すきるタイムで基礎力アップ ○ 一人一人の児童に目を向けた学力分析	1について ○ 小中合同研究の中で、各担任年間2回の研究授業を行う。 ○ 授業や各種活動において、思考・判断する時間を設定する。 ○ 朝の時間においてすきるタイムを設定し、ドリル学習に取り組みせる。 ○ 各学力テストの結果を領域ごとに分析するとともに、一人一人の児童に目を向けた学力分析を行う。	3.0 保護者 3.4	3.2	1について ○ 活用する力の育成を目指して、問題解決的な学習における個人思考・集団思考の充実を図ることを小中合同で研究し、各担任年間2回の研究授業を行った。 ○ 授業や各種活動(朝・帰りの会、集会、清掃等)の中に、自分の考えをまとめる時間を意図的に計画的に設定できた。 ○ 個人差・学年差に対応するために、レディネスチェックを行ったり個々の教師の授業に対するチェックポイントの徹底を図ったりして個別指導を充実させた。 ○ 基礎・基本的な学習内容を理解させるために、朝の時間にすきるタイムを設けてドリル学習に取り組みさせた。結果、漢字や計算の定着が図られてきている。 ○ 全国学力テスト(6年)・宮崎県学力テスト(5年)・NRT(2~6年)の学力分析を領域ごとに行った。特にNRTは経年比較のグラフ化を行い、一人一人の児童に目を向けた学力分析を行った。
		2について ○ 個人思考・集団思考の充実 ○ 作文・詩・俳句等の自主的な投稿	2について ○ 主題研究において、授業で個人思考・集団思考を充実させることと学習規律をしっかり身に付けさせることを研究する。 ○ 宮崎日日新聞やMRTラジオへの作文や俳句・短歌・詩、習字等の投稿を積極的に行う。	3.3 保護者 3.6		2について ○ 算数科における思考力・判断力を育てるために、個人思考・集団思考段階における指導の在り方を研究し、毎日の授業に生かすことができた。 ○ 言語活動の充実を図るために、宮崎日日新聞への投稿を積極的に行い、4月から俳句22、短歌25、詩15、作文19、計81の作品(2月21日現在)が宮崎日日新聞に掲載されたり、mrtラジオで放送されたりした。 ○ 新聞への興味関心を高めるために、5・6年教室に子ども新聞コーナーを設置して社会の学習などに活用した。
		3について ○ 朝読書の充実(読書の記録) ○ 読み聞かせの充実(「あすなろ会」との連携)	3について ○ 学校の図書室の本を紹介したり読んだ本を記録したりするなどの取組を図書委員会で行う。新しい本を計画的に購入するとともに小林市のSSC文庫の活用を図る。 ○ 読み聞かせボランティアグループ「あすなろ会」の協力で、朝の時間や参観日の懇談時間に、読み聞かせを行う。	3.4 保護者 3.6		3について ○ 読書活動を推進するために、学校に登校したら「朝の読書」か「ボランティア活動」に取り組みさせている。図書委員会を中心に、たくさん本を読んだ児童を紹介したり、読んだ本を「読書ビンゴ」シートに記録したり、楽しんで本を読めるようにした。 ○ 新しい本の購入や小林市のSSC文庫の活用により、児童が興味をもつ本を整備した。 ○ 朝の読み聞かせボランティアの方の協力で、朝の時間や参観日の懇談時間に読み聞かせを行った。また、教師による「お話玉手箱」という読み聞かせの時間も設定した。
		4について ○ 中学校や保護者と連携・協力した学習習慣の確立	4について ○ 小中合同で作成した「家庭学習の手引き」を、参観日の学級懇談や学校便りなどで保護者と児童に周知し、日々の家庭学習の見届けを行う。	2.9 保護者 3.2		4について ○ 家庭学習の充実を図るために、小中合同で作成した「家庭教育の手引き」を使って取り組ませた。各学級で児童に繰り返し指導するとともに、中学校とも連携して保護者への啓発を行い、定着させている。
徳育	重点目標: ふるさとを愛し、心豊かにたくましく生きる児童の育成 手段: 1 基本的生活習慣の徹底(須木っ子4か条) 2 体験活動と道徳教育の充実 3 ふるさと教育の推進	1について ○ 須木っ子4か条の実践 ・ あいさつ・ボランティア活動 ・ 始まるの時刻を守る ・ 無言の場を守る ・ 分からないと言える須木っ子に ○ 体罰・いじめ等防止の取組	1について ○ 基本的生活習慣の確立に向けて須木っ子4か条の指導 ・ 朝の会において全員で言う時間を設定の設定 ・ 月目標の設定 ・ 掃除時間の無言作業の徹底 ○ 体罰・いじめ等防止の取組 ・ 校長・教頭による教室巡視 ・ 生徒指導研修会、悩み事調査、サポート委員会、教育相談の実施	3.2 保護者 3.4	3.4	1について ○ 基本的生活習慣の確立に向けて、須木っ子4か条の指導として、朝の会において全員で言う時間を設定し児童が常に意識して学校生活を送れるように取り組ませた。朝のあいさつと会釈については、個人差が見られる。掃除時間の無言作業は、態度が定着している。 ○ 体罰・いじめ等防止の取組として、校長・教頭による教室巡視、生徒指導研修会、悩み事調査、サポート委員会、教育相談等を実施した。昨年度に引き続いて、悩み事調査を毎月行って、些細な事例も見逃さないようにいじめ防止に努めた。これらの取組により人間関係の醸成を図り、一人一人の児童の個性を互いに認め合う学校・学級づくりを図ることができた。
		2について ○ 自立→感謝→貢献→自立の循環づくり	2について ○ 体験学習に積極的に取り組むことで、日常生活が安心して送れることへの感謝の気持ちや職業観をもたせ、自立→感謝→貢献→自立の循環づくりを行う。	3.2 保護者 3.5		2について ○ 社会科見学として小林市にある警察署、消防署、図書館、近隣のスーパーマーケット、遠足で出の山水族館・小林市総合運動公園、北清ファクトリー・宮崎市浄水場・大淀川学習館、宮崎日日新聞社・宮崎科学技術館、西都原古墳群・宮崎県立西都原考古博物館等に見学に行った。また、10月には須木小でバス乗車体験教室・モーモースクール、永久津小学校と合同で音楽劇の鑑賞を行った。 ○ 道徳教育については、夏季休業中に職員研修を行い、実践を行った。
		3について ○ 地域行事への参加 ○ ふるさとプロジェクトの実施と改善 ○ 田植えから餅つきまでの一連の活動	3について ○ 夏祭り、十五夜、ほげまつり等の地域行事への参加を呼びかける。 ○ 区長会と協力して、ふるさとプロジェクトを企画運営する。 ○ 田植えから収穫、餅つきまでの一連の活動を地域の方々や保護者の協力を得て行う。	3.7 保護者 3.8		3について ○ 夏祭り、十五夜、ほげまつり等の地域行事へ積極的に参加するよう呼びかけ、多くの児童が地域行事に参加した。 ○ ふるさとプロジェクトや公開参観日に多くの方の協力を得ることができた。特に、地域担当職員が地域代表である区長と活動の連絡調整を行うことで、地域と学校が協力する体制を作ることができた。また、地域に「先生の顔が見える」機会をもつことができた。 ○ 米作りでは、地域の方々や保護者の協力を得て、田植えからもちつき大会まで行うことができた。
体育	重点目標: 進んで運動し、体を鍛える児童の育成 手段: 1 体育の授業の充実 2 体育の日常化 3 保健・安全指導の徹底と健康で安全な生活の推進	1について ○ 体力向上プランにもとづく運動量の確保、質の向上 ○ ミニ体力テスト週間の設定	1について ○ 体力テストの分析を基に、体力向上プランを作成し、体育の学習の改善を図る。 ○ 記録が低かった種目は、体育の時間や朝の活動において練習し、ミニ体力テスト週間を設定し再度記録を測る。	3.1 保護者 3.3	3.1	1について ○ 体力テストの結果、体力の二極化が見られた。そこで、体育の時間や朝の活動における1分間運動で低かった種目について練習している。特に、記録が低かった種目については、ミニ体力テスト週間を設定して取り組み、全校で約80%の児童が記録を伸ばすことができた。
		2について ○ 「キバツ10カード」の活用 ○ スポーツ少年団との連携	2について ○ 外遊びを奨励するために、「キバツ10カード」(運動場の施設及び遊具を使つての運動プログラム)を作成し、活用する。 ○ スポーツ少年団との連携を図り、運動を奨励する。	2.9 保護者 3.4		2について ○ 屋休みの外遊びを奨励するために、キバツ10カード(運動場の施設及び遊具を使つての運動プログラム)を使って指導した。 ○ 水泳指導の質の向上を図るために、スイミングスクールのコーチを講師として招いて、担任と合同で水泳の指導を行った。 ○ 全校朝会での表彰等を通して、運動を奨励した。
		3について ○ 立腰指導 ○ 「よい子の安全の歌」 ○ 予告なしの避難訓練	3について ○ 全校朝会や毎時間の授業開始・終了時に立腰指導を行う。 ○ 始業式や終業式で「よい子の安全の歌」を歌う。 ○ 予告なしの避難訓練を行う。	3.2 保護者 3.5		3について ○ 立腰指導を充実させるために、全校朝会等において、静かに待ち、相手を見て聞く態度を指導している。授業の始まりと終わりの立腰指導も継続して行うことができた。 ○ 始業式や終業式に「よい子の安全の歌」を歌い、児童一人一人が健康で安全な生活を送るための意識の向上に努めた。 ○ 予告なしの避難訓練を実施し、有事の際に即避難できるように、意識と態度の育成を図った。
食育	重点目標: 望ましい食習慣を身に付ける児童の育成 手段: 1 食に対する指導の充実・食育の推進 2 年2回の「弁当の日」の実施	1について ○ 食事マナーを含んだ給食指導 ○ eデーの計画的実施(月1回) ○ 残菜0を目指した食育推進 ○ 栄養バランスの指導	1について ○ eデーを毎月1回設け、食の月目標に基づいて、食事のマナーや栄養のバランスなどを担任が指導する。 ○ 月1回全校で給食を食べるふれあい給食を実施する。	3.4 保護者 3.5	3.4	1について ○ 食育を推進するためにeデーを設け、食の月目標に基づいて、月1回食事のマナーや栄養のバランスなどを担任が指導し、日々の給食指導に生かした。 ○ 月1回全校で給食を食べるふれあい給食を実施し、全職員で一貫性のある指導を行った。 ○ 食に関する興味関心を高め栄養バランスの指導・食育の推進を図るために、外部講師を招いて「モーモースクール」「味覚の授業」「野菜料理教室」を行った。
		2について ○ 5つのコース設定 「できるところから、できることから、やってみよう。」	2について ○ 5つのコースから自分に応じたコースを選ぶように指導する。	3.4 保護者 3.6		2について ○ 5つのコースから自分に応じたコースを選んで取り組むように指導している。保護者・児童の感想から、児童が自ら弁当を作ることで、親子のコミュニケーションが図れたことや親に対する感謝の気持ちが芽生えたことが分かった。
その他						
次年度の方向性についての校長所見	○ 校長として掲げた学校経営ビジョンは、様々な機会を通して児童、保護者、地域に周知されつつある。次年度は、児童の具体的な行動や姿としてより一層表れるようにする。 ○ 知育については、教師の一層の授業力アップを図り、児童の思考力・判断力を高める授業を展開する。また、少人数のよさを生かし、個別指導の充実を図る。 ○ 徳育については、次期学習指導要領で道徳が特別な教科となることから職員研修を通して指導力の向上を図り、児童の心に響く指導を行う。 ○ 体育については、児童が主体的に体を動かす、主体的に立腰を行う、主体的に安全な行動を取るなど主体性を引き出す取組を推進する。 ○ 食育については、学校での給食指導はもちろんのこと、「弁当の日」や家庭教育学級での料理教室の実施等、家庭と連携した取組を一層進める。					